

小 学 校

令和3年度

教育研究員研究報告書

音 楽

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の仮説	2
III	研究構想図	2
IV	研究内容	3
V	検証授業	
	〈指導事例1：第1学年〉	5
	題材名「せんりつで よびかけあおう」	
	〈指導事例2：第4学年〉	8
	題材名「いろいろなリズムを感じ取ろう」	
	〈指導事例3：第5学年〉	12
	題材名「日本の音楽に親しもう」	
VI	研究の成果と課題	15

研究主題

音楽的な見方・考え方を働かせ、 協働して音や音楽と豊かに関わることのできる児童の育成 ～学年や学習のつながりを踏まえた指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

令和2年度から、平成29年3月に告示された学習指導要領が全面実施となった。

今回の学習指導要領改訂の経緯には、「学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている」と示されている。

また、文部科学省 中央教育審議会において、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)』

(中央教育審議会 令和3年1月26日)が示された。急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力として、「一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている」と示されている。

以上を踏まえ、本年度の教育研究員共通の研究テーマや東京都教育施策大綱(東京都 令和3年3月30日)を基に、音楽科に関する内容を検討した。東京都教育施策大綱では、東京の目指す教育の基軸となる3つの「学び」として、「子供の個性と成長に合わせて意欲を引き出す『学び』、子供の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む『学び』、ICTの活用によって、子供たち一人ひとりの力を最大限に伸ばす『学び』」が挙げられている。これら3つの「学び」を実現させるために、音楽科として必要なことを整理した。

音楽科では、児童の発達段階や学びの系統性等を踏まえて、児童の音楽への関わり方を質的に高めていくことや、協働的な学びの場面を設定することで、友達と音楽表現したり音楽を味わって聴いたりする楽しさを感じることを、そしてICTの活用によって音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図りながら学びを広げ深めることができると考えた。さらに音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養うことが、「これからの社会を主体的・創造的に生き抜いていく子供の育成」につながると捉えた。

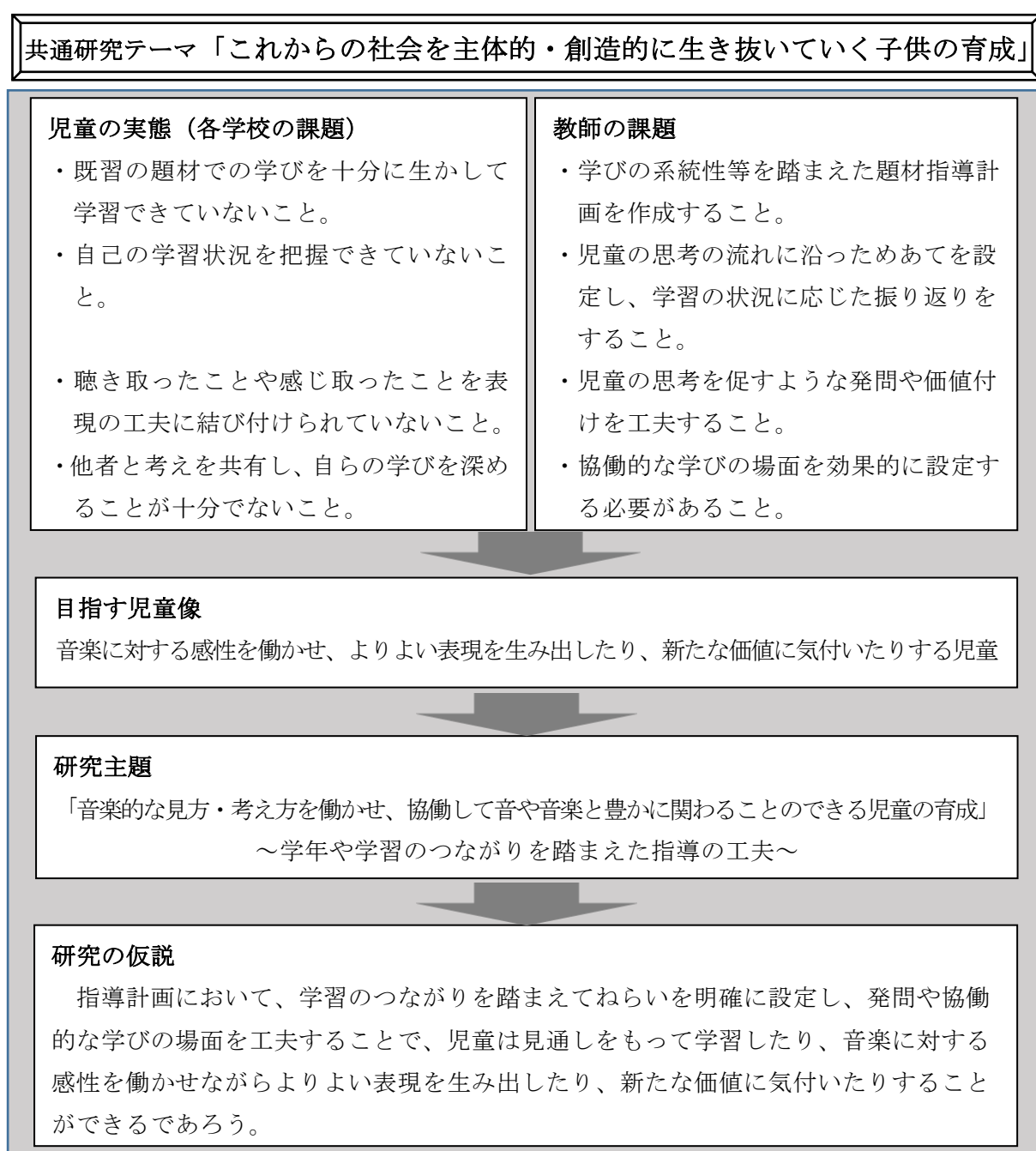
各研究員のこれまでの授業実践を振り返ると、児童の実態として、既習の題材での学びを十分に生かして学習できていないことや、自己の学習状況を把握できていないこと、聴き取ったことや感じ取ったことを表現の工夫に結び付けられていないこと、他者と考えを共有し、自らの学びを深めることが十分でないことが挙げられた。また、教師には、学びの系統性等を踏まえた題材指導計画を作成することや、児童の思考の流れに沿っためあてを設定し、学習の状況に応じた振り返りをすること、児童の思考を促すような発問や価値付けを工夫すること、協働的な学びの場面を効果的に設定する必要があること等の課題が見えてきた。

以上の検討を踏まえ、研究主題を「音楽的な見方・考え方を働かせ、協働して音や音楽と豊かに関わることのできる児童の育成」とし、副主題を「学年や学習のつながりを踏まえた指導の工夫」と設定した。

II 研究の仮説

指導計画において、学習のつながりを踏まえてねらいを明確に設定し、発問や協働的な学びの場面を工夫することで、児童は見通しをもって学習したり、音楽に対する感性を働かせながらよりよい表現を生み出したり、新たな価値に気付いたりすることができるであろう。

III 研究構想図



IV 研究内容

本研究では、目指す児童像「音楽に対する感性を働かせ、よりよい表現を生み出したり、新たな価値に気付いたりする児童」を具現化するために手だてを整理した。手だての整理にあたっては、児童一人一人が「音楽的な見方・考え方を働かせる」ことが必要であると考え、以下の4の手だてを挙げた。また、手だてを講じる中で、教師によるICTの活用や児童による一人1台の学習者用端末の活用の場면을効果的に取り入れることとした。

手だて	カテゴリ	方策
① 題材構成の工夫・見通し		各題材の6年間の系統性や連続性を意識し、学習したことを次の学びに生かせるように指導計画を立てる。その際に、各題材で指導する共通事項を厳選し、身に付ける資質・能力について題材間や学年間で連続性をもたせ、児童が学びを積み重ね、深められるようにする。また、題材を通して、児童が「これから何を学ぶのか」が分かることで、課題意識をもって主体的に学び続けることができる考える。題材の冒頭で、題材のめあてや今後の学習の予定を掲示し、児童が題材を通しての見通しをもてるようにする。
② めあて・振り返り		題材の目標達成に向け、児童が自ら音楽に関わりながら学習できるように、児童の思考の流れに沿っためあてを設定し、毎時の授業で児童に提示する。また、児童が「分かったこと」、「できたこと」、「次の課題」などの自己の学習状況を把握するために、振り返りの場面を設定する。1単位時間での振り返りや題材を通しての振り返りなど、学習の状況に応じて設定する。
③ 児童の思考を促す工夫	発問や言葉掛け (③-1)	児童がめあてを意識しながら学習できるように、表現したり聴いたりする視点を具体的に伝えるとともに、ねらいに迫る発問を精選する。また、学習が深まるような追発問や言葉掛けを工夫する。
	価値付け・助言 (③-2)	児童が表現したり、聴いたりしたことを、教師が、音楽を形づくっている要素を用いた具体的な言葉によって価値付けたり助言したりする。それにより、児童が音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって音や音楽と豊かに関わることにつなげる。
	音楽の視覚化 (③-3)	視覚的に音楽を捉えるために、図形楽譜を含む楽譜などで共有したり、体の動きで表現したりする。

	指導者用デジタル教科書の活用 (③-4)	指導者用デジタル教科書を活用し、聴き取ってほしい部分やパートのみを再生し、曲想と音楽の構造との関わりについて気付くことができるようにする。
	個別最適な学び (③-5)	一人1台の学習者用端末の録画・録音機能を活用し、児童が自己の表現を客観的に見たり聴いたりすることで、よりよい表現を生み出すことにつなげる。
④協働・対話の場面の工夫	学習形態の工夫 (④-1)	児童の発達段階や学習内容に応じて、人数やグループ構成など学習形態を工夫する。音楽を聴き取ったり感じ取ったりする場面では、クラスを半分に分け、体の動きから視覚的にも音や音楽を捉えられるようにする。また、聴き取ったことや感じ取ったことを伝え合い、他者と意見を共有する場面では、ペアや3人グループ、クラス全体など人数やグループ構成を、学習のねらいに応じて工夫し、自らの学びを深めることにつなげる。
	対話の目的や視点の明確化 (④-2)	対話の目的は「互いの考えを確認(共有)する」ため、「互いの考えを伝え合い、意見を交換する」ため、「互いの考えを生かす」ために分けられると考えた。児童一人一人が対話の目的意識をもてるよう、学習状況に応じて声掛けを行う。また、音楽を形づくっている要素やその働きを手掛かりとした対話の視点も明確にする。
	共有の場面の工夫 (④-3)	より多くの考えを短時間で共有したり、自己の考えと他者の考えを比較したり、新たな価値に気付いたりするために、児童一人一人が、自身の考えを一人1台の学習者用端末に入力し、他者と共有できるようにする。

※本研究では、学年や題材に応じて重点化した手だてを基に検証授業を行った。

V 検証授業

指導事例 1

<p>題材名</p> <p>せんりつで よびかけあおう</p> <p>(第1学年)「A表現・歌唱」「B鑑賞」</p>	<p>内容のまとめり</p> <p>[第1学年及び第2学年]</p> <p>A表現(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)</p> <p>B鑑賞 及び〔共通事項〕(1)</p>
---	--

1 題材の目標

- (1) 曲想と音色、旋律や呼びかけとこたえとの関わりに気付き、歌声や発音に気を付けて歌う技能を身に付ける。
- (2) 旋律の呼びかけ合いが生み出すよさや面白さを基に、どのように歌うのかについて思いをもったり、曲全体を味わって聴いたりする。
- (3) 楽器の音色や旋律の呼びかけ合いに興味をもち、友達と協働して歌ったり聴いたりする学習に楽しんで取り組む。

2 指導事項との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ、ウ(ア)(イ)(ウ) B鑑賞(1)ア、イ
〔共通事項〕(1) ア、イ

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」「旋律」「呼びかけとこたえ」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 知 音色や旋律の呼びかけ合いと曲想との関わりについて気付いている。(鑑賞)</p> <p>② 知技 音色や旋律の呼びかけ合いと曲想との関わりについて気付くとともに、歌声や発音に気を付けて歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p>	<p>思① 楽器の音色や旋律の呼びかけ合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思② 声の音色や旋律の呼びかけ合いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。(歌唱)</p>	<p>態① 楽器の音色や旋律の呼びかけ合いに興味・関心をもち、音楽を聴く学習を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞)</p> <p>態② 旋律の呼びかけ合いに興味・関心をもち、友達同士で声の出し方を工夫して歌う活動を楽しみながら、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱)</p>

4 検証内容

(1) 題材構成の工夫・見通し (①)

本題材では、旋律と音色に焦点を当て、歌唱、鑑賞の活動を通して、旋律で呼びかけ合うよさや面白さを感じ取ることができるようにする。

鑑賞教材の「こうしんきょく」では、旋律の呼びかけ合いに着目し、呼びかけとこたえが生み出す曲のよさや面白さを感じ取りながら、曲全体を見通して聴く力を育てる。歌唱教材の「やまびこ ごっこ」では、互いの声を聴き合って同じ旋律を交互に歌いながら、声の出し方や強弱の工夫について思いをもち、それを基にしながら歌声や発音に気を付けて歌う力を養う。音楽づくりの常時活動では、日常的に使われている「こんにちは」「ありが

とう」などの短い言葉を使ったまねっこ遊びを通して、反復、呼びかけとこたえ、変化などの音楽の仕組みに気付くようにする。

(2) めあて・振り返り (②)

毎時間、板書しためあてを児童が声に出して読むようにし、課題意識をもてるようにする。授業の最後にめあてが達成できたかを挙手をして確認したり、次時の始めに前時の振り返りをしたりすることで、主体的に学ぶ意欲につなげるようにする。

(3) 児童の思考を促す工夫 (③)

視覚的に音楽を捉えられるよう指導者用デジタル教科書を活用し、図形楽譜を提示する。図形楽譜は、縦軸が音の高さ、横軸が時間を表す。色や線の種類の違いから音色や曲想の気付きの助けとなる。オノマトペで歌いながら何度も指でなぞることで、音楽と図形楽譜との関係が捉えやすくなる。この経験を、今後の旋律の動きなどの学習につなげていくようにする。

(4) 協働・対話の場面の工夫 (④)

音楽に合わせて体を動かして聴き深める場面では、児童の発言や動きを全体に共有する等、協働・対話の場面を意図的に組み込むようにする。

5 題材の指導計画と評価計画 (全4時間)

次	時	○学習内容 ・学習活動	★具体的な手だて (カテゴリ)	知・技	思	態
第一 次	音色や旋律が呼びかけ合う面白さを感じ取りながら、「こうしんきょく」を聴く。					
	1	<p>○曲全体の曲想を感じ取って聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静かに (自由に体を動かしながら) 音楽を聴く。 <p>○呼びかけ合う旋律を口ずさみながら、楽器の音色を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のまねをしながら、旋律を歌う。 ・図形楽譜に合わせて手を動かす。 <p>・曲に合わせて手や体を動かす。</p> <p>・次時は楽器のことについて学ぶことを知る。</p>	<p>★児童の体の動きや表情の変化を見取るようにする。(③-2)</p> <p>音色…楽器の演奏の模倣</p> <p>旋律…手や体の動きの上下</p> <p>旋律</p> <p>★図形楽譜を手掛かりに呼びかけ合う旋律に気付くようにする。呼びかける旋律「ぱっぱぱっぱぱぱぱ…」と、こたえる旋律「たらったらったら…」を、教師と一緒に口ずさんだり、図形楽譜をなぞったりするようにする。(③-3)</p> <p>★旋律の動きに合った児童の動きを全体で共有するようにする。(④-3)</p> <p>★指導者用デジタル教科書を活用し、動物の持っている楽器に注目するようにする。(①)</p>			① 知 聴取・観察
	2	<p>○曲や演奏のよさや面白さ、美しさを楽しんで聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲に合わせて手や体を動かしながら聴く。 ・役割分担をして体を動かしながら聴く。 	<p>音色</p> <p>・呼びかける旋律と、こたえる旋律とに分かれて交互に立つ活動をして、聴き深めるようにす</p>			① 観察・発言

		<ul style="list-style-type: none"> ・何の楽器で演奏されているか考える。 ・楽器の音に合わせて、動きながら聴く。 ・曲の感想を話す。 隣同士→グループ→クラス 	<ul style="list-style-type: none"> る。(③-3) ★楽器の音色に合わせて動きながら聴いている児童の動きを全体で共有するようにする。(④-3) ★まずは隣同士で話し合い、グループで発表してからクラスに発表するようにする。(④-1) 			① 観察・発言
第二次	感じ取った曲想から声の出し方や強弱の工夫について思いをもち、互いの声を聴きながら呼びかけ合って「やまびこ ごっこ」を歌う。					
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○曲想を感じ取って、呼びかけとこたえの表現を楽しむ。 ・教科書を見ながら、CDに合わせて歌う。 ・歌詞や挿絵から気付いたことを発表する。 ・「やまびこ」になるように歌う。 ○互いの声を聴き合って、「まねっこあそび」をして楽しむ。 	<p>呼びかけとこたえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ★指導用CDや歌詞を手掛かりに、呼びかけとこたえを使ってつくられた歌であることに気付くようにする。(③-4) ★日常的に使われている「こんにちは」「ありがとう」などの短い言葉を使って、まねっこあそびをするようにする。(④-1) 	② 知技聴取・観察		
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○歌い方や声の出し方を工夫して、呼びかけ合いを楽しむ。 ・やまびこのように、声の強弱を工夫し、それに合う体の動きを加えて交互唱する。 ・呼びかける旋律（人間）と、こたえる旋律（山びこ）に分かれて、歌い方や表情（音色）、手拍子や体の動きをまねる。 ・1番の歌詞に合わせて、強弱や表情、声の出し方を工夫して楽しむ。 ・グループごとに工夫した表現の仕方や声の出し方を発表して、互いに聴き合う。 ・「こうしんきょく」を再度聴く。 	<p>音色 呼びかけとこたえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ★強く表すときには大きな動き、弱く表すときには小さな動きを付けて、強弱の違いを体の動きからも感じ取れるようにする。(③-3) ★こたえる役は、呼びかける役をよく見て、呼びかけ合いを楽しむようにする。(④-2) ★2つのグループに分け、強弱や表情、歌い方などを工夫し、楽しいやまびこをつくるように助言する。(④-1) ★呼びかけとこたえを確認するようにする。(②) 		② 観察・発言・聴取	② 観察・発言

指導事例 2

題材名

いろいろなリズムを感じ取ろう

(第4学年)「A表現・器楽」「A表現・音楽づくり」

内容のまとめ

〔第3学年及び第4学年〕

A表現(2)器楽 及び〔共通事項〕(1)

(3)音楽づくり 及び〔共通事項〕(1)

1 題材の目標

- (1) 曲想とリズムの特徴との関わりに気付き、それらを生かして演奏したり、反復などの音楽の仕組みを用いてまとまりのある音楽をつくったりする技能を身に付ける。
- (2) 曲の特徴を捉えた表現や、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもつ。
- (3) リズムやその組み合わせに関心を持ち、それらを生かして表現したり、友達と協働してリズムアンサンブルをつくったりする学習に進んで取り組む。

2 指導事項との関連

A表現(2)器楽 ア、イ(ア)(イ)、ウ(イ)(ウ)

(3)音楽づくり ア(ア)(イ)、イ(ア)(イ)、ウ(ア)(イ)

〔共通事項〕(1) ア

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」「反復」「呼びかけとこたえ」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 知 リズムの特徴や、反復、呼びかけとこたえなどの仕組みに気付き、それらの働きと曲想との関わりに気付いている。(器楽)	思 ① リズムの特徴、反復、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように音を合わせて演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	態 ① 拍にのり、友達と音を合わせて手拍子のリズムを演奏する活動を楽しみながら、器楽の学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。(器楽)
② 技 互いの手拍子のリズムや旋律、伴奏を聴いて、思いや意図に合った表現を工夫しながら音を合わせて演奏する技能を身に付けている。(器楽)	思 ② 曲想と打楽器の音色やリズムの特徴、組み合わせとの関わりについて考え、それらのよさや面白さを生かした表現を工夫し、どのように打楽器を演奏するかについて思いや意図をもっている。(器楽)	態 ② ラテン打楽器のリズムの特徴に興味・関心を持ち、拍にのって声や音を合わせて表現する活動を楽しみながら、器楽の学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。(器楽)
③ 知 曲想やその変化と、打楽器のリズムや音色の組み合わせなどの音楽の構造との関わりに気付いている。(器楽)	思 ③ 言葉のリズム、反復、呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし、リズムのつながり方や重ね方を工夫して、どのようにまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。(音楽づくり)	態 ③ 言葉のリズムやその組み合わせに興味・関心を持ち、友達とリズムアンサンブルをつくる活動を楽しみながら、音楽づくりの学習活動に主体的・協働的に取り組もうとしている。(音楽づくり)
④ 技 リズムの特徴や打楽器の音色を生かし、思いや意図に合った表現を工夫しながら音を合わせて演奏する技能を身に付けている。(器楽)		
⑤ 知 言葉のリズムのつながり方や重ね方のよさや面白さに気付いている。(音楽づくり)		
⑥ 技 言葉のつながり方や重ね方のよさを生かしてまとまりのある音楽をつくる技能を身に付けている。(音楽づくり)		

4 検証内容

- (1) 題材構成の工夫・見直し (①)

本題材では、リズムの特徴に焦点を当て、曲想と音楽の構造との関わりに気付き、そ

れらを生かして演奏したり、音楽づくりをしたりするように教師が見通しをもって進める。また、グループ活動では、演奏の工夫や音楽づくりなど、児童が見通しをもって活動に取り組めるように、既習事項を振り返ったり、全体で確認する場面を設けたりするなど、学習の流れを工夫する。

(2) めあて・振り返り (②)

毎時間めあてを掲示し、児童と確認してから授業に入るようにする。授業の最後にめあてが達成できたかを口頭で確認したり、ワークシートに記入したりして振り返るようにする。また、題材の最後に、全員で工夫を生かして演奏したり、つくった作品を互いに紹介し合ったりして、学習を振り返り、次時の学習につながるようにする。

(3) 児童の思考を促す工夫 (③)





拡大した楽譜を見て気付いたことを共有したり、感じ取った曲想を体の動きで表したりし、音楽を視覚化することで児童の気付きを促す。また、「細かいリズムが続くとどのような感じがするのか」「のびやかな感じがするのはリズムのどんな特徴から感じたのか」など、具体的に発問し、児童が曲想と音楽の構造との関わりに気付くようにする。さらに、児童の発言や演奏、つくった作品を価値付けながら、児童が自分や友達の演奏や作品のよさに気付いて考えを広げたり、どのように演奏するかについて考えを深めたりできるようにする。

(4) 協働・対話の場面の工夫 (④)

クラスが半分に分かれ、互いの演奏を聴き合いながら、音楽の仕組みに気付いて演奏を工夫したり、4～6人のグループに分かれて演奏の工夫や音楽づくりに取り組んだりできるようにする。その際、視点を明確にするため、クラスで何について話し合うかを確認するとともに、ワークシートに自分の考えを記入してから話し合いに臨むようにする。

5 題材の指導計画と評価計画 (全7時間)

次	時	○ 学習内容 ・ 学習活動	★具体的な手だて (カテゴリ)	知・技	思	態
第一 次	「楽しいマーチ」の反復や、呼びかけとこたえなどの音楽の仕組みに気付き、それらを生かして曲の特徴を捉えた表現の工夫をし、手拍子のリズムを演奏する。					
	1	○互いのパートの音を聴き、手拍子のリズムの重なりや呼びかけとこたえに気付く。 ・楽譜を見て、リズムの重なり方や呼びかけとこたえを確認したり、手拍子に合わせて立ったり座ったりしながら演奏したりする。 ・リズムの特徴や、反復、呼びかけとこたえなどの気付いたことと感じたこととの関わりを話し合う。	リズム 呼びかけとこたえ ★視覚的にリズムの重なり方を理解できるように、電子黒板に楽譜を映して気付いたことを共有したり、立ったり座ったりして重なり方を確認したりする。(③-3) ★児童の発言を価値付け、気付いたことと感じたことを整理する。(③-2)	①知	発言・観察	

	<p>2</p> <p>○リズムの特徴や、反復、呼びかけとこたえを生かして曲の特徴を捉えた表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2グループに分かれ、順に演奏を聴き合いながら曲の特徴を生かして強弱などを工夫する。 <p>○友達と音を合わせながら手拍子のリズムを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの音を聴きながら音を合わせて演奏する。 	<p>リズム</p> <p>★互いの演奏を聴き合い、曲想と、音楽の構造との関わりについて、気付いたことや感じたことを伝え合いながら、演奏の工夫をしていくようにする。(4-1)</p> <p>★互いの音を聴きながら、自分たちの工夫を生かして演奏し、曲想とリズムの特徴との関わりを生かした演奏の工夫について実感をもって学習を振り返るようにする。(2)</p>	<p>② 技 聴取・観察</p>	<p>① 観察・発言</p>	 <p>① 観察・発言</p>
<p>第二次</p>	<p>「いろいろな木の実」の曲想の変化を感じ取り、リズムの特徴、音色を生かして打楽器の演奏の仕方や楽器の組み合わせを工夫して演奏する。</p>		<p>③ 知 観察・発言</p>	<p>② 観察・発言・記述</p>	 <p>② 観察・発言・記述</p>
	<p>3</p> <p>○拍にのり、「いろいろな木の実」の曲想とその変化を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かしながら歌ったり聴いたりし、曲想を感じ取る。 ・曲想を感じながら、歌とラテン打楽器を合わせて演奏する。 <p>○打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ピーナッツベンダー」を聴き、ラテン打楽器の音色やリズムの雰囲気を感じ取る。 	<p>リズム 反復</p> <p>★体を動かして感じ取った曲想を可視化し、価値付けながら、Aの部分ののびやかに盛り上がる感じ、Bの部分の軽やかで歯切れのよい感じに気付くようにする。(3-2、3-3)</p> <p>★リズムや楽器の組み合わせについて見通しをもてるようにラテン打楽器を演奏するまねをしながら聴くようにする。(1)</p>	<p>③ 知 観察・発言</p>		
	<p>4</p> <p>○「いろいろな木の実」の曲想の変化を生かし、打楽器の組み合わせを工夫し、演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いろいろな木の実」の前半と後半の曲想の違いを生かしてリズムや楽器の組み合わせをグループで話し合う。 ・グループの工夫を紹介し合う。 	<p>リズム 反復</p> <p>★曲想の変化を生かした組み合わせの工夫についてワークシートに書いた自分の意見を基にグループで意見を交流するようにする。(4-2)</p> <p>★曲想の変化と関わらせて自分たちの工夫や、友達の工夫について振り返り、ワークシートにまとめるようにする。(2)</p>	<p>④ 技 発言・聴取</p>	<p>② 観察・発言・記述</p>	 <p>② 観察・発言・記述</p>

第三次	言葉のリズムを拡大したり縮小したりしてリズムをつくり、反復、変化について理解し、リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループでリズムアンサンブルをつくる。				
	5	<p>○言葉のリズムの拡大や縮小によるリズムの面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書の例を基に、つなげ方や重ね方を工夫し、気付いたことや感じたことを共有する。 <p>C:細かいリズムが続くと楽しくなる。 C:長いリズムは支えている感じ。 C:違うリズムが重なると面白い。 C:休むところがずれると面白い。</p> <p>○反復や呼びかけとこたえについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 反復、呼びかけとこたえについて確認する。 4文字の言葉を使ってアンサンブルをつくり、言葉を変えて全体で共有する。 	<p>リズム</p> <p>★「おまつり」の言葉を使ってリズムアンサンブルを演奏したり、つくったりしながら、リズムの拡大や縮小、つなげ方や重ね方による面白さに気付くように児童の発言を価値付ける。 (③-2)</p> <p>反復 呼びかけとこたえ</p> <p>★楽譜を見て、既習の反復や呼びかけとこたえについて触れながら確認するようにする。</p> <p>★複数の言葉で試し、言葉の語感による面白さに気付き、次時のグループの音楽づくりへの見通しをもてるようにする。(①)</p>	⑤ 知 発言・観察	
	6	<p>○リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループでアンサンブルをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 意見を交流しながらリズムをつなげたり重ねたりして、グループごとに8小節のリズムアンサンブルをつくる。 互いの演奏を紹介し合う。 	<p>リズム 反復 呼びかけとこたえ</p> <p>★ワークシートを基に、つなげ方や重ね方についての意図を伝え合い、カードを並べ替えながら試行錯誤できるようにし、協働してアンサンブルをつくるようにする。 (④-1)</p> <p>★リズムのつなげ方や重ね方について、友達の仕事を見付け、自分たちの工夫に生かすことができるように互いの演奏を聴き合うようにする。 (④-2)</p>	③ 発言・観察・記述	
7	<p>○互いの作品を聴き合い、リズムのつなげ方や重ね方のよさや面白さに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> グループごとにつくった作品の楽譜を電子黒板に映し、それぞれの楽譜を見ながら、互いの作品を紹介し合う。 	<p>リズム 反復 呼びかけとこたえ</p> <p>★電子黒板にそれぞれの作品を映し、共有しながら聴き合い、リズムのつなげ方や重ね方の工夫に気付いて、学習を振り返り、自分の考えを広げられるようにする。 (②、④-3)</p>	⑥ 技 聴取・発言・記述	③ 発言・観察・記述	

指導事例 3

<p>題材名</p> <p>日本の音楽に親しもう</p> <p>(第5学年)「A表現・歌唱」「A表現・音楽づくり」</p> <p>「B鑑賞」</p>	<p>内容のまとめり</p> <p>〔第5学年及び第6学年〕</p> <p>A表現(1)歌唱 及び〔共通事項〕(1)</p> <p>(3)音楽づくり 及び〔共通事項〕(1)</p> <p>B鑑賞(1) 及び〔共通事項〕(1)</p>
---	---

1 題材の目標

- (1) 音色、旋律や音階などと曲想との関わりについて理解し、日本の旋律の特徴に合った歌い方で歌ったり、音楽をつくったりする技能を身に付けている。
- (2) 音色、旋律や音階を聴き取り、それらの働きが生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、それらを生かした歌い方や、どのように全体のまとめりを意識した音楽をつくったりするかについて、思いや意図をもつ。
- (3) 日本の音楽の特徴などに興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱、音楽づくりや鑑賞の学習活動に取り組み、日本の音楽に親しむ。

2 指導事項との関連

A表現(1)歌唱 ア、イ、ウ(イ) (3)音楽づくり ア(ア)(イ)、イ(イ)、ウ(イ)

B鑑賞(1)ア、イ

〔共通事項〕(1) ア、イ

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」「旋律」「反復」「呼びかけとこたえ」)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 知 曲想やその変化と、箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどとの関わりを理解している。(鑑賞)</p> <p>② 知技 曲想と歌詞の内容や音色、旋律などとの関わりについて理解するとともに、呼吸や発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。(歌唱)</p> <p>③ 知技 旋律のつなげ方の特徴を理解するとともに、呼びかけとこたえや反復を用いて音楽をつくる技能を身に付けて、まとまりのある音楽をつくっている。(音楽づくり)</p>	<p>思① 箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感覚取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞)</p> <p>思② 2つの旋律の特徴や曲想の違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、それぞれの旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。(歌唱)</p> <p>思③ 日本の音階や旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、旋律の音の上がり下がりやつなげ方を工夫し、どのように全体のまとめりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。(音楽づくり)</p>	<p>態① 日本の音楽に興味・関心をもち、日本の音楽の特徴を味わって聴く活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(鑑賞)</p> <p>態② 日本の音楽に使われている音階の音を使い、旋律の特徴が生み出すよさや面白さを生かして、とまりのある旋律をつくる活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。(音楽づくり)</p>

4 検証内容

- (1) 題材構成の工夫・見通し (①)

鑑賞の学習で、楽器の音色や音階による日本の音楽のよさを見いだしたり、音楽の構造との関わりを理解したりしたことを、音楽づくりの学習に生かせるようにする。

- (2) めあて・振り返り (②)

児童が自己の学習の状況を把握し、主体的に学習に向かえるよう、<題材全体の学習の

流れ>を以下のような表にして常時提示する。学習の際には、これまでに学習した〔共通事項〕について児童の気付きがあった場合は追記する。学習内容を視覚化することで、学習内容を振り返ったり、学びが積み重なっていることを意識したりできるようにする。

<題材全体の学習の流れ>

時		めあて	共通事項
1	鑑賞	箏と尺八の音色に親しんで聴こう	呼びかけとこたえ
2	「春の海」	曲全体を味わって聴き、曲のよさを紹介しよう	反復（アーイーア）
3	歌唱 「子もり歌」	・曲に合った歌い方を工夫しよう ・2つの旋律の雰囲気の違いを味わおう	旋律
4	音楽づくり	日本の音階を使って旋律をつくろう ①一人で2小節の旋律をつくろう	
5		②グループで旋律をつなげてまとまりのある旋律をつくろう	旋律 反復 呼びかけとこたえ

(3) 児童の思考を促す工夫 (③)

何を手掛かりに鑑賞をするのか、どのように表現したらよいかなど、児童が理解しやすいよう発問の工夫をする。また、児童の発言には、「どんな音楽からそのように思ったのか」などと音楽の要素と結び付くように問い直したり、「旋律の音の高さを工夫して表現できていますね」などと価値付けたりする。音楽づくりでは、児童が表現した音楽を客観的に聴き、よりよい表現に生かせるよう一人1台の学習者用端末を活用する。

(4) 協働・対話の場面の工夫 (④)

鑑賞では、直接意見を交流する場面と、一人1台の学習者用端末を活用し全体で意見を交流する場面を設定し、児童の意見を効果的に共有できるようにする。

5 題材の指導計画と評価計画（全5時間）

次	時	○学習内容 ・学習活動	★具体的な手だて（カテゴリ）	知・技	思	態
第一次		日本の楽器の響きや旋律の美しさを味わいながら鑑賞したり、歌ったりする。				
	1	<p>○「春の海」を鑑賞し、箏と尺八の楽器に親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の音楽について学習することを知る。 曲名を知り、曲全体を聴き構成に気付く。 <p>T: 尺八の旋律はどのように表れているでしょうか。</p> <p>C: 始めと終わりは、箏が伴奏で尺八が主旋律を演奏しているようでした。中の部分は、箏と尺八が交互に演奏していました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 箏と尺八の旋律の表れ方を、体を動かしながら確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> 曲全体を聴き、本時の学習を振り返る。 	<p>音色 旋律 反復</p> <p>★題材全体の流れを表にして提示する。 (①)</p> <p>★楽器の音色を手掛かりとして聴くようにし、音楽の仕組みに気付くようにする。 (③-1)</p> <p>★箏と尺八を聴く担当をそれぞれ決め、音色が聴こえたらその場で立つようにし、2つの旋律が呼びかけとこたえになっていることを実感できるようにする。 (③-2)</p> <p>★一人1台の学習者用端末に入力するようにする。 (④-3)</p>	① 知 発言 観察 記述		

	2	<ul style="list-style-type: none"> ○曲全体を味わって聴き、曲のよさについて紹介文にする。 ・前時の学習について振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・作曲家や、演奏者の思いを知る。 ・曲全体を味わって聴き、曲のよさを紹介文にして伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★前時の学習の振り返りの内容を、一人1台の学習者用端末を使って共有し、楽器の音色や、呼びかけとこたえの音楽の仕組みがあることを確かめる。 (4-3) ★児童の記述が、音楽の要素とどのように関わっているか、価値付けるようにする。 (3-2) 		① 発言・記述	↓ ① 観察・記述
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○曲に合った歌い方を工夫する。 ・「子もり歌」の指導用CDを聴いて曲の雰囲気を感じ取り、曲に合った歌い方を工夫する。 <ul style="list-style-type: none"> ○2つの旋律の雰囲気の違いを味わう。 ・指導用CDを聴いたり、楽譜を見たりして、雰囲気の違いに気付く。 	<p>旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ★どのように歌うとよいかグループの中で考えを交流するようにする。 (4-2) <ul style="list-style-type: none"> ★2つの旋律を楽器で演奏し、音階が違うことを確かめるようにする。(3-2) 	② 知技 発言・聴取	② 発言	
第二次	日本の音階を使って、まとまりのある旋律をつくる。					
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の音階を使って旋律をつくる。 ・旋律づくりの学習の流れを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・3人グループで学習し、楽器を使って表現を試しながら旋律をつくる。 	<p>旋律</p> <ul style="list-style-type: none"> ★めあてと次時までの学習の流れを伝え、学習の見通しがもてるようにする。 (1) ★学習の状況を把握し助言したり、表現の工夫を価値付けたりする。(3-2) 		③ 発言・記述・聴取	↓
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○グループで組み合わせを工夫しながら旋律をつなげて、まとまりのある旋律をつくる。 ・どのような旋律をつくるか見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> ・楽器で表現したり、録音して確かめたりしながらグループで旋律をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・題材全体の学習を振り返る。 <p>C: 外国の音楽と違う日本の音楽のよさが分かった。</p> <p>C: いつも使っている音階と使う音が違うだけで、日本の感じがしてすごい。</p>	<p>旋律 反復 呼びかけとこたえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ★まとまりのある旋律とそうでない旋律を演奏し、違いに気付くようにする。 (3-1) ★一人1台の学習者用端末を使用する。(3-5) ★どのように工夫したか児童に問いかける。(3-2) ★題材全体を振り返り、自己の学習の状況を確かめる。 (2) 	③ 知技 聴取・発言	③ 発言・記述・聴取	↓ ② 観察・聴取

VI 研究の成果と課題

1 成果

(1) 題材構成の工夫・見通し

教師が題材を貫く共通事項を厳選し、常に意識することで、児童が見通しをもって表現したり、鑑賞したりするなどの学習活動を行うことができ、題材を通して児童の学習を積み重ねることができた。

(2) めあて・振り返り

教師がねらいを明確にし、児童の思考の流れに沿っためあてを設定することで、児童が何を学ぶのかを意識して主体的に学習に臨んでいた。また、毎時や題材の終末で振り返りをさせることで、自身の学びや変容を自覚して次の学習につなげたり、教師の指導に生かしたりすることができた。

(3) 児童の思考を促す工夫

ねらいに迫る発問を精選することで、児童が聴いたり感じ取ったり考えたりする視点を明確にすることができた。また、言葉掛けを工夫することで、音楽的な見方・考え方を働かせ、考えに根拠をもったり、学習を深めたりする手掛かりになった。指導者用デジタル教科書を活用したり、体の動きを効果的に取り入れたりすることで、視覚的に曲想と音楽の構造との関わりについて気付くことができた。一人1台の学習者用端末の録音機能を活用し、児童が自己の表現を客観的に聴くことができ、よりよい表現につなげることができた。

(4) 協働・対話の場面の工夫

意図的・計画的に協働の場面を設定し、他者の考えに触れたり対話をしたりすることで、新たな価値に気付き、音や音楽とより豊かに関わっていかこうとする意欲を引き出すことにつながった。さらに、一人1台の学習者用端末を活用することで、互いの考えを共有したり、比較したりしやすくなり、自分の思考を広げたり深めたりすることができた。

2 課題

(1) 題材構成の工夫・見通し

各題材の6年間の系統性や連続性を踏まえて年間の題材指導計画を立て、身に付けるべき資質・能力について題材間や学年間で連続性をもたせ、児童が学びをより積み重ね、深められるようにする必要がある。

(2) めあて・振り返り

児童が課題意識をもって、一層、主体的に学習に取り組めるように、児童の思考に沿っためあてを、児童自身の言葉で設定するよう工夫することが、今後の課題である。

(3) 児童の思考を促す工夫

個別最適な学びを実現するための、一人1台の学習者用端末の活用方法や、思考を促すツールとしてのICTの活用方法については、今後も研究していく必要がある。

(4) 協働・対話の場面の工夫

学習内容に応じた協働の場面（時・人数・構成・学習方法）を、学年に応じて系統的に

計画していく必要がある。

令和3年度 教育研究員名簿

小学校・音楽

学 校 名	職 名	氏 名
中央区立豊海小学校	主任教諭	◎神立 行子
港区立赤羽小学校	主任教諭	武田 美保子
文京区立青柳小学校	主任教諭	田賀谷 美加里
江東区立第三砂町小学校	主任教諭	牧野 由貴
大田区立嶺町小学校	主任教諭	山崎 あゆ美
世田谷区立二子玉川小学校	主任教諭	吉原 貴子
府中市立小柳小学校	教 諭	永山 夏子
稲城市立平尾小学校	主任教諭	川井 真紀子

◎ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課

指導主事 井戸 正利

令和3年度
教育研究員研究報告書
小学校・音楽

令和4年3月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849

